

Staging of gastric cancer with the Clinical Stage Prediction score

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷口, 清章 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032828

学位論文の要旨

Staging of gastric cancer with the Clinical Stage Prediction score
Clinical Stage Predicting score (CSP score) を用いた胃癌 Stage 診断の
検討

東京女子医科大学消化器外科学教室
(指導：山本雅一教授)
谷口 清章

World Journal of Surgical Oncology volume17:47(2019)に掲載

【要 旨】

胃癌 Stage III/IV に対し化学療法が第一選択となる場合、外科的治療が第一選択となる Stage I/II と鑑別することは最も重要である。しかし、既存の臨床診断は病理診断と比較し正診率が低いことが問題となっている。そこで治療前に得られる臨床診断因子を分析した Clinical Stage Predicting score (CSP score) を作成し、客観的に Stage I/II と III/IV との鑑別が可能か検討した。対象は 1996 年 1 月から 2015 年 12 月に当院にて施行された胃切除例で 2722 例とした。治療前に得られる臨床診断因子を、年齢、性別、腫瘍マーカー血清 CEA、血清 CA19-9、腫瘍径、占拠部位、組織型、肉眼型と定義した。単変解析の結果、腫瘍マーカー CEA、CA19-9、腫瘍径 60mm 以上、全周、上部領域、食道浸潤、十二指腸浸潤、MUC、2 型 3 型 4 型が有意に Stage III/IV に多かった。前壁、後壁、中部、TB1、SIG、0 型は有意に Stage I/II が多かった。単変量解析で有意な臨床診断因子のうち多変量解析で Stage III/IV の関連性を示す因子は、CEA、腫瘍径 60 mm 以上、全周、食道浸潤、MUC、2 型 3 型 4 型であった。抽出された臨床診断因子を β 変数に基づいた相対的重みづけを行い CSP score を作成した。対象症例ごとに得られた CSP score より ROC 曲線を作成し、Cut off 値を 17 点とした。CSP score 17 点以上は 1042 例中 820 例 (78.7%) が Stage III/IV であった。また、17 点未満の症例 1680 例中 1547 例 (92.1%) が Stage I/II であった。感度 78.7%、特異度 92.1%、陽性的中率 86.0%、陰性的中率 87.5% であった。治療前に得られる臨床診断因子を score 化した CPS score は、Stage I/II と Stage III/IV の客観的な鑑別の一助になると考えられた。